



事も多いのですが、まず一つ大きく変わったのは、スタジオに行くことがなくなり全てリモートになりました。また選手と直に対面してインタビューをすることや、対談するという機会はゼロになりました。

コロナ前は、奈良で生活しながら、仕事の度に東京に頻繁に行くという感

たり、減ったりで、その数字に私たちも一喜一憂してしまいます。飲食を経営されている方や医療従事者の方など、先が見えないということは辛いと思います。私もオリンピックは凄く夢のあるチャレンジだつたし、生きがいでした。でもそこは4年後という一つの集大成、区切りという目指すべきものが、口あつたから頃長つてハナました

口ナはなかなかゴールが見えない。藤尾社長の場合は、何千人という社員の方を率いていらっしゃいます。そう考えるとこの状況はとても苦しいなと思いますが、いかがですか？

じだったのですが、数ヶ月間は奈良の自宅で出来る仕事がメインになりました。その分、家族との時間は増えて良かったです。

かく私たちの仕事というのは、どんな時でも、マラソンではなく駆伝なんです。タスキを渡していくという、エンレスの仕事なので。僕は今ここでタスキを持って走って、次のメンバー達にタスキを渡す。そういう中で、自分が出来ることをしつかりとやる。企業の価値は存続と成長ですから、存続させながら成長させていかなければ意味ないです。

藤尾 現時点でコロナを我々にはどうすることもできない。この先1年、2年続いた時にどうするのか、悲観的に考えながらも、自分の行動は明るく前向きにやつていこうと思っています。

僕の場合はたくさんの雇用を生むことは社会的に意義のあることだと信じていますので、これからもたくさんの人と出会い、たくさんの店を出していきたいと思っています。

ゴールは1万店舗。まだ日本の外食産業では到達出来ていない、そこを目指します。そのためには組織の中から

野村 いつまでも長くは続かないとは思いますが、今はまだ感染者数も増え思っています。

後に振り返って、この時に一所懸命やつたという自分でなかつたらダメだし、そういう会社でなかつたらダメだと思ひます。

僕の場合はたくさんの雇用を生むことは社会的に意義のあることだと信じていますので、これからもたくさんの人と出会い、たくさんの店を出していきたいと思っています。

ゴールは1万店舗。まだ日本の外食産業では到達出来ていない、そこを目指します。そのためには組織の中から何人の経営者が生まれるか。彼らが本気になつて戦えるステージを作るというのが僕の仕事でもあります。僕も頑張るけども自分たちもしっかりと頑張らんとあかんぞ、という感じになります。私は比較的思い悩むというようなことはあまりないです。皆とポジショントは違うけど、しつかりやつていこうと思つています。

たり、減つたりで、その数字に私たちも一喜一憂してしまいます。飲食を経営されている方や医療従事者の方など、先が見えないということは辛いと思います。私もオリンピックは凄く夢のあるチャレンジだつたし、生きがいでした。でもそこは4年後という一つの集大成、区切りという目指すべきものが、口あつたから頃長つてハナました

藤尾 尾社長の場合は、何千人という社員の方を率いていらっしゃいます。そう考えるとこの状況はとても苦しいなと思いますが、いかがですか？

ロナはなかなかゴールが見えない。藤尾社長の中でも一所懸命やると決めています。

かく私たちの仕事というのは、どんな時でも、マラソンではなく駅伝なんです。タスキを渡していくという、エンレスの仕事なので。僕は今ここでタスキを持って走つて、次のメンバー達にタスキを渡す。そういう中で、自分が出来ることをしつかりとやる。企業の価値は存続と成長ですから、存続させながら成長させていかなければ意味ない

僕の場合はたくさんの雇用を生むことは社会的に意義のあることだと信じていますので、これからもたくさんの人と出会い、たくさんの店を出していきたいと思っています。

ゴールは1万店舗。まだ日本の外食産業では到達出来ていない、そこを目指します。そのためには組織の中から

PROFILE 野村 忠宏 (のむら ただひろ)

1974年	奈良県生まれ
1990年	私立天理中学校卒業
1993年	私立天理高等学校卒業
1996年	アトランタ五輪 金メダル
1997年	天理大学体育学部武道学科卒業
1999年	株式会社ミキハウス入社 柔道部所属
2000年	シドニー五輪 金メダル
2004年	アテネ五輪 金メダル
2015年	現役を引退
2018年	アスリートの価値を高めスポーツの持つ無限の可能性を広く社会に伝えていくため「株式会社Nextend」を設立
医学博士	
東京2020聖火リレー公式アンバサダー	

野村 その時は無我夢中でした。日本柔道の代表ということで、他の競技とは違う苦しみが正直ありました。金メ

ダル以外許されない空気感、期待され

る喜びと、その期待に応えたい、そして自分の夢をかなえたい、など色々なプレッシャーや不安、恐怖がありました。

3歳から始めた柔道は楽しく、柔道は大好きだったけど、なかなか努力が結果に繋がらない子供でした。柔道の先生をしていた父親や周りの人から、期待してもらいたい、なにか一つ自分が輝ける場所が欲しい、自分が好きな柔道だからこそ、そういう強い思いがあつたので、自分が諦めることなく、少しづつ努力し続けたことが自分の成長につながったのだと思います。

その喜びは物凄く実感したので、自分が大好きな柔道は人生の中で一番真剣になれる、ここだけは大事にしていいたいと思いました。そういう中で、一つの大きなチャレンジが形として残されたのがオリンピックでした。一度目は誰もが期待していなかつた野村がまさかの金メダルを取つたことによって、今度はまた違う価値観が自分の中に生まれました。期待されない一人の若者のオリンピック金メダルへのチャレンジが、今度は金メダリストとしてのチャレンジになつていく。そうやって

二連覇三連覇への道があつたので、非常に自分の内で価値のあるチャレンジでしたし、結果として三連覇という記録を残せましたが、それ以上に色々なことを学べた期間だただと思います。

同じ3つのオリンピックの金メダルといえど、どれを取つても同じではなく、それぞれのオリンピックに向きあつた過程も違うし、その時に居た自分も違うし、とても大きな成長を与えてくれた挑戦であつたと思います。

オリンピックで結果を残したことで、人生の可能性を大きく広げる事が出来ました。チャレンジの大切さ、そのチャレンジの機会をいかに活かして結果を残すかという厳しさを学びました。だから夢や希望にプラスして結果を出す厳しさも与えてくれたのがオリンピックでした。オリンピックで活躍することによって、子供の頃から柔道に真剣に取り組んできた姿を見せる事もでき、仲間も増えました。自分に真剣な思いもなく、適当な姿勢で柔道を取り組んでいたら、気づきを与えてくれたり、間違っていることを正してくれる人とは出会えなかつたと思います。そこまで情熱を持って真剣に打ち込めば、柔道と出会えて幸せだったな、と引退したらそう強く思います。



インタビュアー なかなか結果が出ない時は、どのようにモチベーションを保たれましたか。

野村 柔道一家に生まれましたが、いつも柔道を諦めてもいいくらいの選手だったので、いつ嫌気がさしてもいい感じだったので、そうですね、モチベーションは結構二つの要素があると思います。一つは何かを得るために頑張ろうという、例えば地位を得るために、賞金をもらうために、など具体的な要因で頑張ろうというモチベーションもあつても良いと思います。でも自分の場合は、自分の心から湧き出でてくる、柔道がうまくなりたい、強くなりたい、という想いがありました。子供の時弱かつたけど、柔道を選んだ自分がいた。柔道一家に生まれたけれど、子供の頃は柔道、水泳、野球、サッカーなど色々なスポーツをさせてもらつて、チーム競技と個人競技をやつた中で、なんだかんだ言つて柔道が一番楽しかつたんです。強い弱いは別として。

祖父は柔道が好きで、奈良県の田舎で農業をしながら自分の私財を投げうつて柔道場を創設しました。その柔道場で父や叔父も柔道を学んだのです

が、祖父はそんな強い人ではありませんでした。ただ柔道が大好きで大好きでした。そんな祖父は子供たちに伝えました。そんな祖父は子供たちに伝えた話では、「厳しい稽古は必要無い。柔道の技の基本と礼儀を学びながら柔道の楽しさを知り、そして柔道を好きになつてほしい。柔道を好きになつたら、親や指導者が子供に夢や目標を与えることも、子供なりに強くなりたい、こういう選手になりたい」というふうに自分で夢を持つようになる。だから今は結果を求めるのではなく、純粋に柔道を楽しんでそして好きになつてくれたい。」そういう想いを持った祖父の道場で自分が柔道を出来たのです。だから子供の時に厳しい練習を強要されなかつたし、試合に勝てなかつたけれど、何故勝てないんだ、何故強くなれないんだ、と怒られることはなかつたです。だからその祖父の道場で転がつたり、祖父の目を盗んで友達とプロレスごっこしたり、カンフーごっこしたりとか、遊びの中で柔道を学べました。それがすごく楽しくて。だからサッカーや野球色々やつたけれど、その中で柔道が一番大切だった。それで中学校に進学するときに、よし、これ

からは柔道一本に絞って自分が大好き
な柔道を自分自身のために、これから
は楽しむだけじゃなくて、本気で強く
なるために柔道をやろう、と柔道を選
びました。だから弱かつたけれど、自
分が選んだ柔道というのを大事にした
いし、選んだ責任が自分の中にありま
した。

一杆菌強めていこうと思いました。今諦めるのはもったいない、自分の可能性はもつとある。だからその未来へ向けて今を大事にしようという想いで、中学校、高校を経て、ある程度の努力が実を結んだのが大学に入つてからです。

これが金メダルです。1996年アテネです。

でもそれでも勝てなかつたんですよ。柔道が名門の天理中学に行つたのです
が、最初の試合で女の子に負けたりして、周りからも「あいつ弱いぞ」と言わ
れていました。中学校に入つたときは

身長が140センチで、体重が32キロしかありませんでした。中学の柔道部の一一番軽いクラスは55キロ以下級です。55キロ以下で32キロしかないから、最軽量級の中でも23キロ足りない。勝てないんですね、やっぱり。それでもやつぱりそういう思いがあつたので、女の子に負けて、悔しさより恥ずかし

さがあつたけれど、今は勝てないけれど、真剣に練習して一生懸命何か一つ自分の武器になるような技を磨いていいれば、いつか強い選手になれるのではないか、真剣な思いで続けた未来の自分に期待しようと思うようになります。そしてその未来への期待をいつか

インタビュアー 最後に、今も素晴らしいスタイルですが、体型維持で気を

(笑) 野村 体型維持はしていないで

野村 体重が今いくとここまで行つてしまつたから、何とかしないとっていう微かな自制です(笑)

インタビュアー　トレーニングはされているのですか。

野村 そうですね。週に何度かは動くようになります。40歳まで現役を続けることが出来て、そのご褒美としてメダルを頂き、色々な経験が出来ましたが、その代償として全身ボロボロという感じです。今まで酷使した身体や膝をケアするには、最低限筋力が必要になるので、トレーニングを含めて統けていかなければいけないと思います。



社員の皆さん一人一人がその取り組みを想いというのを、毎日大事にしてほしいですし、その想いが自分の成長につながるし、お客様にも伝わると思いま

役割は絶対あると思うので、役割を今
うするということが、その人個人の信
頼になると思いますし、その信頼され
る個人の皆さんが集まつた会社という
のはお客様から信頼されますし、愛さ
れると思います。それが長く続く唯一
の秘訣だと思います。その想いで頑
張ってほしいです。

